長崎原爆遺構を歩く

県原水協常任理事　内田　武志

④

内部は全壊・焼失

爆心地から五百㍍に位置する城山国民学校。九州初の鉄筋コンクリート三階建ての白亜の校舎は、被爆によっても倒壊は免れましたが、建物には大きな亀裂が走り、内部は全壊・焼失しました。

戦後は、幾度も修復して使用されていました。老朽化で全部が取り壊されようとしましたが、同校の育友会や同窓会などの強い要望で一部が貴重な被爆遺構として保存されました。

現存するのは、当時の北校舎階段塔屋部分で、「平和祈念館」として公開されています。館内には犠牲になった教師の遺影や、投下直後の写真なども、建物の傷跡とともに展示されています。

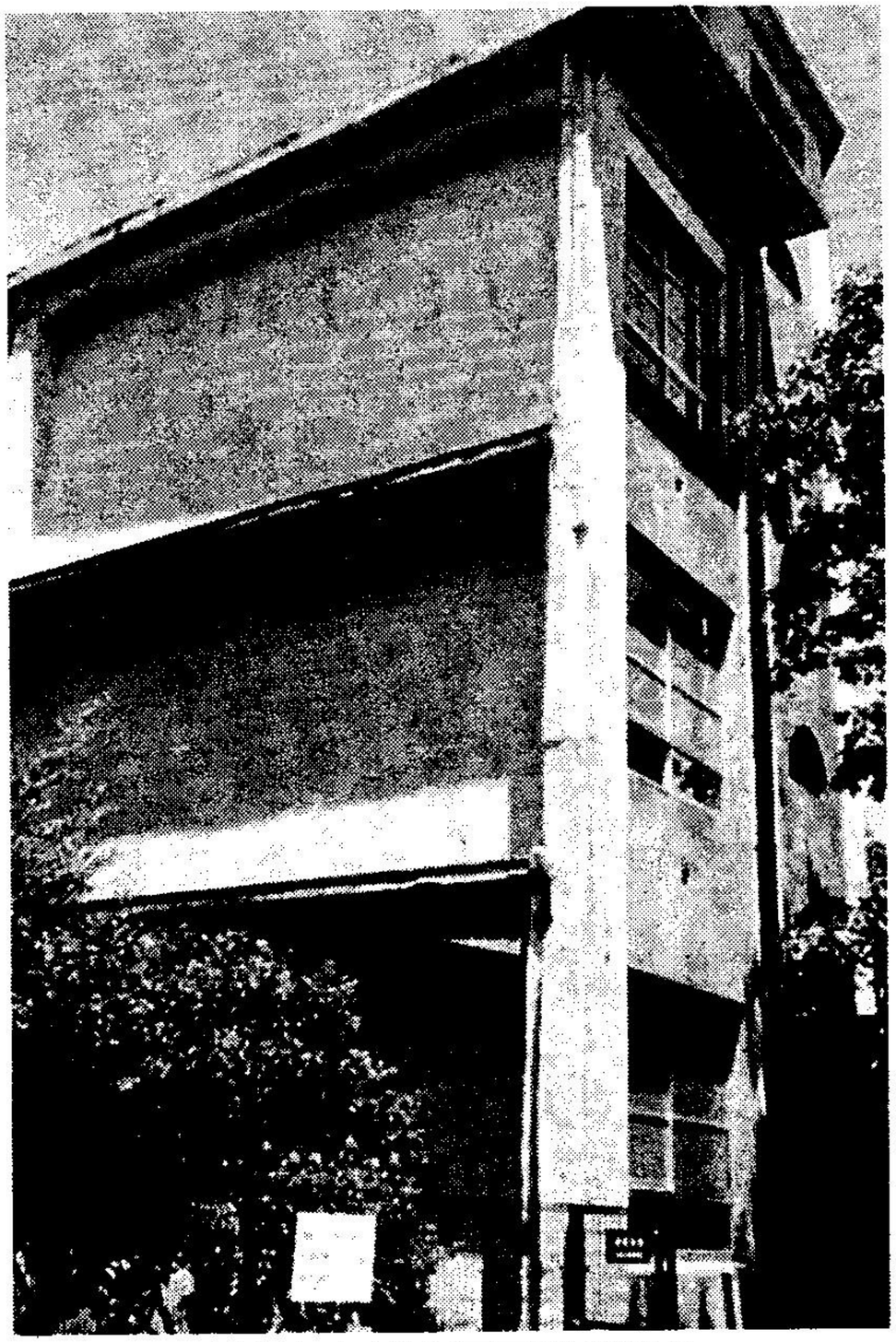
その日、学校にいた教師二十八人、庁務員三人、三菱兵器製作所員五十八人、挺(てい)身隊員十二人、学徒報国隊員四十二人が爆死。学校に居て生き残ったのは十八人（校舎の一部は三菱兵器製作所の事務室として使用されていました）。在籍児童は約千五百人いましたが、生き残ったのはわずか五十余人でした。

校内には、学徒報国隊員として勤務中に被爆即死した林嘉代子さん（県立高女四年・十六才）のお母さんが娘と被爆死した女学生の「慰霊」にと寄贈された「嘉代子桜」。両親を原爆でなくした少年をモデルに、台座には、出征していた父を除く家族のすべてを失い奇跡的に助かった少女が書いた平和の文字が刻まれた「少年平和像」などもあります。

（つづく）

城山小学校被爆校舎

城山町23－1



被爆した城山国民学校校舎